

中国電影大観



北京の恋—四郎探母 (秋雨／AUTUMNAL RAIN)

2007(平成19)年11月21日鑑賞<宣伝用ビデオ鑑賞>

監督=孫鉄スンタイエ／出演=前田知恵モンデン／靳東ビーイユンチュン／畢彥君ビヤン／張哈ヂェンハ (ワコー、フォーカスピクチャーズ配給／2004年中国映画／98分)

……まずは、外国人初の北京電影学院本科卒業生となった、主演の前田知恵に注目！ 日本人だって、やればできるじゃない！ 次に、北宋時代の京劇の演目『四郎探母』を勉強しよう。そうすれば、あの日中戦争まで遡る重大な問題提起と、北京の恋の行方が見えてくるはず……。

まずは、前田知恵に注目！

2007年10月10日に北京電影学院での特別講義を実現した私としては、2000年3月に北京電影学院の演劇科に外国人初の本科生として合格し、2003年6月にトップの成績で卒業後、テレビドラマ『永恒恋人』、映画『紫日』への出演やイメージガール、CMの仕事を経て、2004年の『北京の恋—四郎探母』に主役として登場した前田知恵にまずは注目！

彼女は帰国後、2006年4月からはNHKの『中国語会話』にレギュラー出演しているとのこと。そんな彼女は1981年3月8日生まれだから今年26歳。日本にこんなすばらしい女性がいたことに大感激！ この映画はもちろん、今後の前田知恵の活躍に要注目だ。

「京劇」と『四郎探母』の理解が不可欠！

日本でこの映画が大ヒットするのはかなり難しいと私は考えている。なぜなら、この映画を理解し楽しみかつ考えるためには、京劇と『四郎探母』の理解が不可欠だが、今ドキの日本の若者にはもちろんのこと、一般的にもそれはとてもムリと思えるから。



近時の若者向けのヒット作を見ると、『恋空』（07年）、『クローズ ZERO』（07年）、『陰日向に咲く』（07年）など、ケータイ小説やそれに近い原作を映画化した軽薄短小なものばかり。したがって、こんな若者たちには、日中間題と京劇の『四郎探母』に絡んだ物語という難解なテーマはお呼びでないことは当然。私も京劇はともかく、『四郎探母』は全く知らなかったが、プレスシートやネット情報で勉強してバッチリ。なるほど、北宋時代、北方の異民族国家、遼との間にそんな物語があったのか……。

第4章

日本と中国の浅からぬ縁

橋本梶子は、前田知恵の人生の生き写し……？

前田知恵は高校生の時に陳凱歌チェン・カイコー監督の『さらば、わが愛／霸王別姫』（93年）を観て大感激し、その直後から中国語を学び始め、2000年にたった1人で北京電影学院の門をくぐり、中国語と演技の勉強を続けた後、この映画に主演として登場した、10万人に1人いるかいないかというすばらしい女性。

他方、この映画に登場する主人公橋本梶子しじこは、京劇を勉強したいというだけの理由で祖父のチャット仲間である何冀初ホー・チー・チュウ（畢彦君ビー・イエン・チュン）を頼って、1人北京西直門駅にやってきた女性。こりゃ、まるで前田知恵の人生の生き写し！

ちなみに、この梶子という名前は両親がつけたのだろうが、きっと中国で軍人として活動していた祖父の影響があったのでは……？ 元京劇の女形スターであった中国人の何冀初ホー・チー・チュウと梶子の祖父がなぜチャット仲間なのかについて映画は特に解説しないが、これが後に大問題を引き起こすことに……。

同じ夜、8年ぶりに息子が

何冀初ホー・チー・チュウが西直門駅で待っていたのは、京劇ファンの日本人男性。ところが、その

男性の名前を騙ってそこにやってきたのは、若い日本人女性の梶子。仕方なく、^{ホー・チー・チュウ}何冀初は梶子を京劇院の舞台袖に連れて行ったが、当然のように、「日本人には京劇を学ばせない」と院長から大目玉！しかし、そのまま日本に帰すわけにもいかず、そうかといって自分の家に同居させるわけにもいかず、^{ホー・チー・チュウ}何冀初は大混乱。

さらにそれに輪をかけたのが、京劇を嫌って家を飛び出していた息子の^{ホー・ミン}何鳴^{チン・トン}（靳東）が8年ぶりに家に戻り、父親の跡を継いで再び京劇役者として舞台に立つと宣言したこと。こりゃうれしいことだが、いきなりそう言われても……？ 映画の冒頭、^{ホー・チー・チュウ}何冀初にはそんなこんなハプニングが連続！

^{シュー・ミャオチュン}徐妙春がキーウーマンに

とりあえず、^{ホー・チー・チュウ}何冀初は梶子を、自分の最初の弟子で、今は京劇院の先生をしている^{シュー・ミャオチュン}徐妙春^{チャン・ハン}（張晗）に預けることに。天真爛漫な梶子は、そんな中機嫌よく生活しながら、^{シュー・ミャオチュン}徐妙春の下で京劇の勉強を続けている様子。そして、梶子は^{ホー・チー・チュウ}何冀初の家に戻ってきた^{ホー・ミン}何鳴に対して、無邪気に近づいたが、梶子が日本人だと知った^{ホー・ミン}何鳴は「俺は日本人が大嫌いなんだ！」と梶子を拒否。

他方、^{ホー・チー・チュウ}何冀初は当然^{ホー・ミン}何鳴の復帰を認めたため、^{ホー・ミン}何鳴は^{シュー・ミャオチュン}徐妙春の弟弟子として再び京劇の稽古に取り組みはじめた。さあ、2カ月後に控えた公演で、『四郎探母』の主役2人を演ずるのは一体ダレ……？ 当然、遼の鉄鏡王女を演ずるのは^{シュー・ミャオチュン}徐妙春だが、遼との戦いに敗れながら、今は鉄鏡王女の夫となっている四郎を演ずるのは一体ダレ……？ そんなストーリー展開のキーウーマンになるのは、どうもこの^{シュー・ミャオチュン}徐妙春のよう……。





大晦日の夜に、大問題が勃発！

中国では、新年だけではなく、旧暦の大晦日にも餃子を食べるらしい。そんな大晦日の夜、集まったのは何 ^{ホー・チーチュウ} 冀 ^{シュー・ミャオチュン} 初と徐 ^{ホー・ミン} 妙 ^{シュー・ミャオチュン} 春そして何 ^{ホー・ミン} 鳴と梶子の4人。徐 ^{シュー・ミャオチュン} 妙 ^{シュー・ミャオチュン} 春先生がつくる温かい餃子を食べようとしたのだが、その前に梶子が日本の祖父に電話をしたところ、その会話の様子が自然に耳に入った祖父の具合が急に悪くなったから大変。梶子が電話口の向こうで語っている祖父の名前は……？ そして、あの日中戦争の最中、あくまで日本軍に抵抗して戦っていた何 ^{ホー・チーチュウ} 冀 ^{シュー・ミャオチュン} 初 ^{ホー・ミン} の父親を殺した日本兵は……？ そんな悪夢のような六十数年前の話が、いきなり現実問題に……。さらに、梶子のパソコンに入っていた祖父からのメールを偶然読むことになる……。さあ、ここに大問題が勃発！ これによって、いたたまれなくなった梶子は遂に日本に帰国せざるをえないことに……。

これ以上のネタバレは厳禁で、ここまでの解説が私としては精一杯。後はあなたの目で、こんな悲劇をじっくりと……。



2008年6月下旬、ジュネオン エンタテインメントより DVD 発売予定

フィナーレは……? ハイライトは……?

この映画のチラシには、主演の前田知恵が京劇女優として『四郎探母』の鉄鏡王女を演じている(らしい)写真が載っている。また、この映画は邦題だけではハッピーエンドなのか、それとも悲恋モノなのかわからないうえ、原題の『秋雨』では余計わからない。

さあ、そこがこの映画のミソ……。あの日中戦争時代の何が蒸し返されたことによって、梶子は日本に帰らざるをえなくなったの……? 他方、なぜチラシのように、梶子が京劇の舞台に立っているの……? あれは単なる広告用の写真……?

そして「北京の恋」とは、当然梶子と何鳴の恋のはずだが、日本人嫌いの何鳴と日本に追い返された梶子の間で、なぜ「北京の恋」が成立するの……? そんなフィナーレとハイライトに向けて、あなたの想像力をたくましくしながら、是非この名作を楽しんでもらいたいものだ……。

2007(平成19)年12月5日記

九条にあるシネ・ヌーヴォは、十三の第七芸術劇場と並ぶこだわりを持った映画館。黄色い大地(一九八四年)と「短いコリヤン」(八七年)に代表される中国映画やベルギーは、七八年に再開された北京電影学院を八二年に卒業した第二期の俊英たちの功績、それから二十余年、今や同学院は世界的に珍しい最高峰の国立映画大学だ。わたしは今

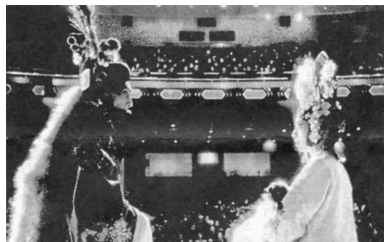
これぞ本格女優! 前田知恵に注目!

成就は困難を極め、愛唯一の欠点……?



北京の恋 四郎探母

あすからシネ・ヌーヴォで公開



和の中国電影論を熟外国人初の同学院本科く語ったが、その基礎生に。そしてトップのなるのは祖父の時代のはそんな映画館の「中成績で卒業後、『北京 不幸な歴史のため。国映画の全貌2000の恋』に主役として抜 そんな若い男女の苦4」で見た三十本の歳の期待の星だ。中国映画にある。

今回の注目点は、最「さらば」は日中戦 感動的に描かれてい争文化大革命など激く、視聴率狙いのバラも登場した前田知恵、動の歴史の中で翻弄さ エテリ一番組や安モ彼女は高三の時に見たる三人の男女を描い、のテレビドラマが氾濫陳凱歌監督の『さらた超大作だが『北京のする中、それとは異質ば、わが愛 霸王別姫』恋は京劇の勉強のため、本物の女優による(九三年)に感動してめ中国に来た日本人女 本の演技と本物の映北京行きを決め、百倍性と中国人の京劇俳優 画をタップリと味わえとの恋を描く珠玉の名。前田の演技は完璧作は写真は一場面しかひよとしてかし国境を超えた恋の流暢すぎる中国語が

大阪日日新聞 2007(平成19)年11月23日